

**第1回佐賀県西部広域環境組合  
施設整備検討部会会議録**



平成21年 6月13日 14:00～16:30

佐賀県西部広域環境組合

第1回佐賀県西部広域環境組合施設整備検討部会			
日 時	平成21年 6月13日(土) 14:00~16:30		
場 所	武雄市役所 建設課2階会議室		
部 会 員	区 分	氏 名	出 欠
	学識経験者	小野 隆弘	出
	学識経験者	平尾 実	出
	学識経験者	荒巻 康博	出
	学識経験者	伊藤 洋	出
	学識経験者	中山 裕文	出
	構成市町担当課	織田 清弘	出
	構成市町担当課	伊藤 芳弘	出
	構成市町担当課	亀井 初男	欠
	構成市町担当課	池田 博幸	出
	構成市町担当課	百武 孝	出
	構成市町担当課	千々岩 正博	出
	構成市町担当課	西村 英樹	出
	構成市町担当課	小森 九州男	出
	構成市町担当課	土井 秀文	欠
	域内既存施設担当職員等	力武 岩夫	出
	域内既存施設担当職員等	福田 康成	出
	域内既存施設担当職員等	棚町 信也	欠

佐賀県西部広域環境組合	事務局長	井関 勝志
	事業係長	加々良 俊文
	事業係主査	古賀 正太
財団法人日本環境衛生センター西 日本支局	環境工学部部長	岩永 宏平
	環境工学部建設技術課課長代理	古保里 俊夫
八千代エンジニアリング株式会社	環境施設部技術第二課課長	松本 良二
	環境施設部技術第一課主幹	小林 栄己
	環境施設部技術第一課主任	清野 昭則

## 第1回佐賀県西部広域環境組合施設整備検討部会

平成21年 6月13日(土)  
午後2時00分 開会

### 【1】開会

### 【2】協議・報告事項

- (1) 部会員の紹介
- (2) 施設整備検討部会設置要綱について
- (3) 部会長・副部会長の選出
- (4) 現在までの経過について
  - ①ごみ処理広域化基本計画について
  - ②建設予定地について
  - ③施設整備スケジュールについて
  - ④事業手法について
- (5) 施設整備基本計画策定の進め方について
  - ①検討部会スケジュール
  - ②施設整備の基本的な考え方
  - ③処理システムの概要
  - ④処理システム・処理方式の選定における検討部会の進め方
  - ⑤アンケート調査の概要

### 【3】その他

### 【4】閉会

---

### 【1】開会

○事務局長より開会

○ごみ処理施設建設委員会委員長（伊万里市副市長）より挨拶

## 【2】協議・報告事項

### (1) 部会員の紹介

事務局から部会員の紹介を行った。

### (2) 施設整備検討部会設置要綱について

[事務局]

施設整備検討部会設置要綱について、説明を行った。

[質 疑]

特になし。

[結 論 (確認事項)]

**●検討部会の会議については、非公開とし、会議録については、名簿を含め公開を行うことを確認された。**

### (3) 部会長・副部会長の選出

[事務局]

事務局案として、部会長に小野隆弘氏を、副部会長に織田清弘氏を推薦提案した。

[質 疑]

特になし。

[結 論]

**●部会長は小野隆弘氏、副部会長は織田清弘氏と決定された。**

○部会長の挨拶

(この後の議事進行は委員長)

### (4) 現在までの経過について

#### ①ごみ処理広域化基本計画について

[事務局]

ごみ処理広域化基本計画の概要について、説明（報告）を行った。

[質 疑]

(部会員) エネルギー回収推進施設は、炉数は決まっているのか。

(事務局) 決まっていない。今後、検討部会で協議いただくこととなる。

(部会員) 現在稼動している施設(焼却施設)は、新施設が稼動すれば廃止する方向  
であると考えてよいか。

(事務局) 廃止することで考えている。

(部会員) 現在、供用されている域内の最終処分場は活用できるのか。

(事務局) 保有されているところで検討いただいております、結論が出たら部会への報告  
を行う。

[結 論 (確認事項)]

●エネルギー回収推進施設の炉数は決定していない。

●エネルギー回収推進施設が稼動した場合、現在稼動している施設(焼却施設)は廃止  
する。

●既存の最終処分場の活用については、保有されているところで検討いただいております、  
結論が出たら部会へ報告する。

②建設予定地について

[事務局]

建設予定地と決定経緯について、説明(報告)を行った。

[質 疑]

(部会員) 施設配置のレイアウトは、長方形型をベースとするという理解でよいか。

(事務局) 施設を縦一列に配置する長方形型をベースとしている。

[結 論 (確認事項)]

●施設の配置レイアウトは、施設を縦一列に配置する長方形型をベースとする。

③施設整備スケジュールについて

[事務局]

新ごみ処理施設供用開始までのスケジュールについて、説明（報告）を行った。

[質 疑]

特になし。

[結 論（確認事項）]

**●新ごみ処理施設の供用開始までのスケジュールを確認した。**

#### ④事業手法について

[事務局]

これまでに検討してきた事業手法について、事務局から説明（報告）を行った。

[質 疑]

(部会員) 事業手法について、PFI的手法を採用しない理由が説明されたが、一部PFI的手法を否定するような誤解を招く説明であった感を受けた。今後の説明については、留意していただきたい。

(事務局) 了解。

[結 論（確認事項）]

**●事業手法としては、PFI的手法を採用しない。**

**●PFI的手法を採用しない理由の説明の中で、一部PFI的手法を否定するような誤解を招く説明であったため、今後の説明については、留意する。**

#### (5) 施設整備基本計画策定の進め方について

##### ①検討部会スケジュール

[事務局]

検討部会の検討内容及び開催時期等について、事務局から説明を行った。

[質 疑]

(部会員) エネルギー回収推進施設についてのメーカーアンケートを予定されているが、併せて最終処分場についても行ってはどうか。

(事務局) 最終処分場についての技術的な情報の収集も不可欠と考えるが、現時点で

想定される中間処理施設の処理システムが多岐にわたることから、どの処理システムを採用するかによっては、最終処分場の規模にも大きく影響すると考えている。そのため、まずは処理システムを絞り込んだ後で、必要な調査があれば最終処分場に関するアンケートを実施していきたいと考えている。

(部会員) 並行して進めている環境影響評価方法書作成のために、どのような条件が必要なのか。

(事務局) 提示する4つの処理システムの中から絞り込んだシステムのうち、排ガスや水等の排出条件について、より環境に負荷がかかる条件で設定し、作成していくこととなる。

(部会長) 可能性のある処理システムの中から、概ね8月までに処理システムを2～3つに絞り込むということによろしいか。

(事務局) そのようにお願いしたい。

[結 論]

- 最終処分場の技術情報等に関するアンケートは、処理システムを絞り込んだ後、必要な調査があれば実施する。
- 次回の検討部会で、4つの処理システムの中から2～3つに絞り込む。絞り込んだシステムを基本として環境影響評価の方法書へ記載する事項を定めていく。

## ②施設整備の基本的な考え方

[事務局]

施設整備の基本的な考え方について、説明を行った。

[質 疑]

(部会員) 説明のあった施設整備の基本的な考え方を踏まえて処理システム・処理方式の絞り込みを行っていくということであるが、絞り込みを行うにあたっての具体的な目標や経済性の比較などを事務局から提示されるのか。

(事務局) 例えば、リサイクル率であれば19%以上を目指すとか、環境省交付金制度に従いサーマルリサイクルとして10%以上の発電効率を確保するとか、数値化できる目標については整理する予定である。

(部会員) 平成20年度に策定されているごみ処理広域化基本計画の基本理念の中に「低炭素化社会を目指していく・・・」とあるが、例えば、「二酸化炭素の削減」を周辺環境や地球環境といった問題に配慮した条件として盛り込むのはどうか。

(部会長) 施設整備の基本的な考え方、また、ごみ処理広域化基本計画に掲げる基本理念に基づいて、具体的な評価項目を提案・整理していただきたい。

(事務局) 了解。

[結 論]

**●施設整備の基本的な考え方、ごみ処理広域化基本計画の基本理念に基づいて、処理方式を絞り込む際の具体的な評価項目を事務局にて提案・整理する。**

③処理システムの概要

④処理システム・処理方式の選定における検討部会の進め方

[事務局]

検討部会で検討対象とする4つの処理システムの概要について、説明を行った。引き続き、処理システム・処理方式の選定方法について、説明を行った。

[質 疑]

(部会員) 一次選定を行う案と行わない案が示されているが、例えば、実績がない、メーカーがない、建設予定地に配置できない、安定的な操業が見込めない(受入先があるか)、現状のごみ収集方法が大幅な変更になり、特殊なごみ収集をやらなければならない等、基本的な条件として一次選定を行い、二次選定でより具体的な評価をやっていくというやり方がよいのではないかな。



(部会員) 評価項目については、環境省から出されている『廃棄物処理施設建設工事等の入札・契約の手引き』を参考にしてください。

(事務局) 了解。

(部会員) 処理システム・処理方式の選定のための比較検討資料を事務局から提示されると思うが、事務局案としての評価を提示してもらった上で、検討部会で検討していきたい。

(部会員) 評価方法で、点数化をするか否かについては、点数化をするとなると評価項目ごとに重み付けをすることになるが、現段階では点数化はせず、定性的な評価(○、△、×など)で進め、合議制のもとで進めるのがよいのではないか。また、評価項目ごとの重み付け等が合意のもとで可能であれば行っていくという手法がよい。

[結論]

- 処理システム・処理方式の選定方法は、2段階方式とする。**
- 一次選定として、基本的条件(実績、建設予定地に配置可能か、受入先があるか等)の検討を行い、それらをクリアしたシステム・方式のみ二次選定を行う。なお、一次選定時の評価項目はわかりやすい表現に改めて具体化する。**
- 二次選定時の評価項目としては、環境省から出されている『廃棄物処理施設建設工事等の入札・契約の手引き』等を参考に一般的な項目を設定し評価を行う。**
- 比較検討資料のとりまとめに関しては、評価コメントに事務局案を加えたものを提示した上で検討部会の中で検討する。**
- 評価項目ごとに定性的な評価(○、△、×等)で進め、重み付けをする必要が出てくればその段階で検討する。**
- 評価は、検討部会の合議によりとりまとめる。**

⑤アンケート調査の概要

[事務局]

処理システム・処理方式の選定のために実施するアンケート調査について、調査対象及びその概要について、説明を行った。

〔質 疑〕

(部会員) メーカーアンケートの中で、年間運転管理費を質問項目として挙げているが、どのような聞き方をするのか。

(事務局) 15年～20年といった長期間で年度ごとの内訳を記載してもらうように考えている。

(部会員) メーカーは実績が多くあるところと1つしかないようなところ、10年前に建設したが最近では実績がないようなところにもアンケートをとるとした場合、それをどう評価するのかという問題がある。また、仮に焼却方式も熔融方式も技術を有しているメーカーのデータは方式の評価検討がしやすい。何かルールを決めたほうがよい。さらに、アンケートをするには、新施設で想定されるごみ発熱量などのデータの条件を出す必要がある。

(事務局) 次回の検討部会で、ルール決めをしたメーカーアンケート案を提示する。

(部会員) 外部産業等、受け入れ先に対するアンケート調査は第2回検討部会の資料として必要となるということであるが、データの条件を提示しながら受け入れの実績等アンケート項目を慎重に検討していただきたい。

(事務局) そのように考えている。調査内容は事務局に一任ということで進めさせていていただきたい。

(部会員) 自治体へのアンケートを行う場合は、自治体によって人件費等の維持管理費等の取り扱いが異なったりしている。使えないデータを集めても仕方がないので慎重にやってもらいたい。

(事務局) 了解。

〔結 論〕

- メーカーアンケートについては、対象メーカーの選定方法のルールを決めて事務局案として提示し検討いただく。
- 外部産業等の受け入れ先に対するアンケート調査は、データの条件(量的なもの等)を提示しながら行う。調査内容の詳細は事務局に一任する。(第2回検討部会資料のため)
- 自治体へのアンケートを実施する場合は、維持管理費等の内訳が自治体ごとに異なるので慎重に検討する。

### 【3】その他

- 次回の検討部会の開催日時について

第2回検討部会 7月25日(土) 14:00～

第3回検討部会 8月28日(金) 14:00～

### 【4】閉会